

# ほけんだより

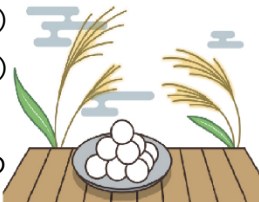


令和5年9月1日  
湘南支援学校 保健室


長い夏休みも終わりを迎えました。数年ぶりに規制のない夏休みをみなさんはどのようにすごしましたか。暑い日も続きましたが、体調を崩すことはなかったでしょうか。少しずつ夏休み気分を学校モードに切り替えて、2学期も元気に過ごしましょう。

## 9月 保健行事

- 4日(月) 身体計測(高1)
  - 5日(火) 身体計測(高2)
  - 6日(水) 身体計測(小学部)
  - 7日(木) 身体計測(中学部)
  - 8日(金) 身体計測(高3)
  - 14日(木) 精神科検診(小1・3・高2-3・4)
  - 20日(水) 宿泊前内科検診(小5・6・中学部  
高2・3)
  - 25日(月) 体重測定(高1)
  - 26日(火) 体重測定(高2)
  - 27日(水) 体重測定(小学部)
  - 28日(木) 体重測定(中学部)
  - 29日(金) 体重測定(高3)
- ※宿泊前内科検診は、宿泊行事のある学年のみが対象になります。



### 保健室からのお知らせ

- 災害時予備薬の提出について  
2学期以降も災害時予備薬を預ける希望のある方は主治医の方とご相談の上、災害時予備薬保管票、お薬の説明書のコピー、災害時予備薬3日分の提出をお願いします。
- 夏休み中の健康の記録の提出について  
夏休み中の健康面の様子や定期通院、検査結果をご記入の上提出をお願いします。
- 10月の体重測定は宿泊行事や実習の関係で9月末での実施になっています。

## 「けがの手当てをおぼえよう」



9月の保健目標は「けがの手当てをおぼえよう」です。今回は、保健室で行っているけがの手当ての工夫について紹介します。本校に在籍するお子さんの多くには感覚的な過敏さが困り感としてあげられると思います。そのお子さんにけがの手当てを行うと「冷やさない方がいいのにアイシングを拒否してしまう」「止血したいのに絆創膏をすぐにとってしまう」等様々な課題があります。その際に、保健室ではアイシング、止血の時間を目で見て分かるように、タイマーを使用して見通しを持たせる工夫をしています。また、少量の出血の場合は圧迫止血後にワセリンを上から塗り止血を行っています。



## 性教育について

夏休みの機会を利用して、保健室では性教育に関する講演会にいくつか参加することができました。その中で、「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」について紹介がありました。今後子どもたちに性教育を行う中で大切にしていかなければいけないポイントについていくつかご紹介させていただきます。

### 「からだは大切」としながらも「禁止」の表現がおおくなっていませんか

子どもたちに善悪を分かりやすく伝えていきたい。分かってほしいという気持ちが強くなるがあまり、「性器は触ってはいけません。」「異性に近づくのはいけません。」といった伝え方を子どもたちにしていないでしょうか。国際セクシュアリティ教育ガイダンスには5歳～8歳の間に『自分のからだに、誰が、どこに、どのような方法で触れることができるかを決める権利をもっている。』と明記されています。そのため、私たち大人は一概に禁止するのではなく、「あなたの体はあなただけのもの。だから、あなただけの場所で性器は触ろうね。」「だから、他の人は勝手に触ってはいけないんだよ」と普段のかかわりから、「あなたのからだは大切なんだよ」というメッセージを送っていくことが大切です。

#### ※性器いじりについて

子どもが性器をいじっていると禁止をしたくなります。しかし、性器を触る背景にはさまざまな理由が考えられます。「退屈、かゆい、不安、寂しい、ちょっとした快感が欲しい等」その背景も是非考えてみてください。



### 「同意」について子どもと一緒に考える機会をつくりませんか

「性教育」と聞くと「プライベートゾーンについて」「2次性徴について」「妊娠・出産について」等、とても幅広くあります。しかし、「同意について」というワードはなかなか忘れてしまいがちではないでしょうか。子どもとお風呂に入る時にプライベートゾーンについて話をするのも性教育のワンステップとして必要だと思います。是非次のステップとして、からだをさわる時には、相手が同意しているかを聞くことが大切「イヤなとき、したくない時は『NO』と言っていい」、「逃げていい」、「ただし相手にも『NO』という権利がある」、「『NO』 = 『キライ』とは限らない」という「同意」についても話をしていくことも大切です。「同意」について話をするタイミングとしては、お風呂に入る時、トイレの介助をする時があげられます。日常生活の中で、周りの大人がどのように声掛けを行い子どもたちに触れていくかの積み重ねの中で、体験的に学ぶことができるのだと思います。

